

# アフリカにおけるエボラ出血熱の流行に関する誤情報の流れを分析

一般公開情報データを生きた知見に変換

## 分析

Babel Street Insightsの力と一般公開情報 (PAI) を利用した分析により、インターネット上でウガンダ政府を批判する人々の大きなネットワークをたどっていくと、エボラ出血熱の流行に関し虚偽の主張を広めている1人の人物にたどりつくことが判明しました。



「ウガンダで本当にエボラ出血熱が流行しているのか、それとも公的資金や寄付金を吸い上げる口実として使われているのか、と一般市民は疑問に思っている」

「エボラ出血熱のせいで学校は2週間前から休校になっているのに、大人はおおぜい集まって一緒に汗をかいている。これほど病気を簡単に広げる方法はない」

## 背景

- ウガンダの保健当局は、22年9月20日にエボラ出血熱の発生を確認
- 流行していたのは、12年のスーダンを最後に報告がなかったスーダン型のウイルス
- SNSにおいて流行は事実でないと主張する人々が多数現れ、事態が複雑化

## 公開情報の力：ウガンダにおけるエボラ出血熱の誤報



十数億件以上

一般公開されているデータソースとディープ/ダークウェブから文書を収集



2億件以上

1日あたりに処理される文書量



24時間/365日

言語横断的な検索をたゆまず常に実行



1秒

重要な洞察を得るために必要な時間

詳しくは、[babelstreet.jp](https://babelstreet.jp) をご覧ください。